霧島市の文化財 vol.3

霧島神宮

国宝 本殿、幣殿、拝殿
指定日：令和４年（2022）年２月９日

重要文化財 勅使殿、登廊下
指定日：平成元年（1989）年５月19日

所在地：鹿児島県霧島市霧島田口 2608-5

霧島連山のひとつである高千穂峰に、天照大神の神勅を受けて降臨した孫（天孫）のニニギノミコトを祭神とする霧島神宮。建国神話に繋がる神を祀る神社として、数少ない神宮号を名乗っています。

もともと、霧島山の上に社殿が建てられたことがはじまりとされていますが、度重なる噴火や火災によって社殿は焼失・移転を繰り返します。現在の社殿は正徳５年（1715）に薩摩藩主・島津吉貴の寄進によって造られました。社殿は、高千穂峰を背にして建てられていて、火山への信仰を今に伝えます。さらには溶岩の傾斜の上に建てていることで高低差のある社殿が建築され、地表に出ている溶岩そのものが本殿の礎石の一部に使われるなど、火山を利用した社殿になっています。

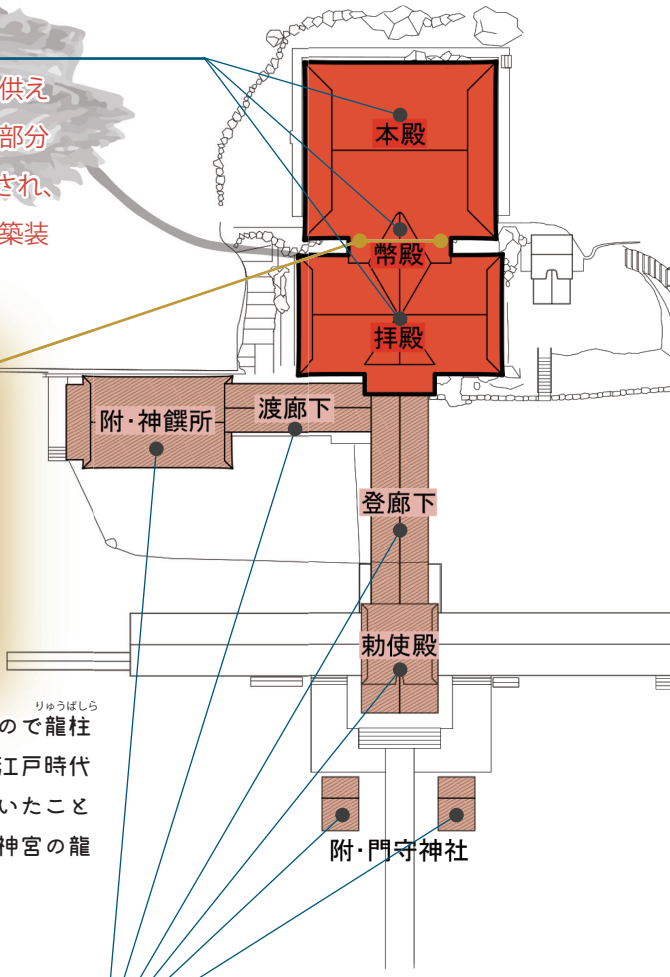
上から本殿・幣殿・拝殿・登廊下・勅使殿と並び、正面から見ると屋根が前後に重なる荘厳な景観になります。社殿それぞれが国宝と重要文化財に指定されています。

国宝

本殿　幣殿　拝殿　附　棟札二枚

高低差がある本殿（神を祀る建物）と拝殿（参拝を行う建物）を幣殿（お供え物をささげる建物）で繋ぎ、一棟の建物となっています。祭神を祀る本殿部分の規模は全国的に見ても巨大です。建物全体が彫刻や絵画でくまなく装飾され、極彩色・漆塗・朱塗で豪華に彩られているのが特徴で、近世に発達した建築装飾意匠の集大成のひとつとされます。

本殿の向拝柱は龍の形に彫り込まれたもので龍柱といいます。南九州の神社特有のもの。江戸時代も薩摩藩には東アジアの文化が流入していたことを示すとされています。その中でも霧島神宮の龍柱は最古・最大級のものです。



重要文化財

登廊下　勅使殿　附　門守神社二棟　神饌所一棟

霧島神宮社殿は高低差を利用して建てられていて、正面平地にある勅使殿（勅使を迎える建物）と、斜面上の拝殿を登廊下で繋いでいます。勅使殿は唐破風で、松や唐獅子牡丹などの華麗な彫刻で彩られています。登廊下と勅使殿も正徳５年に建築された建物であり、社殿を構成する主要な建物として重要文化財に指定され、門守神社（勅使殿前にある境内を守る神社）と神饌所（お供え物を準備する建物）は附とされています。

2023 年 6 月 5 日初刷　霧島市教育委員会